



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1924, 1(3): 273-280

ISSUE DATE:

1924-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182647>

RIGHT:

雜 報

○高等教員檢定試験の指定参考書の就て 去る二月廿一日の官報に本年十月中旬東京に行はれる高等教員檢定試験の出願者注意が出た、その中に地質鑛物科に關する参考書が指定されてある、今便宜のため之を試験に行はれる細目に分けて掲げることにする。

一般地質學地史學に關するもの

1. Pirsson & Schuchert

A Text-Book of Geology, 2 vols.

Part I. Physical Geology.

Part II. Historical Geology.

2. Tornquist

Grundzüge der geologischen Formations-

und Gebirgskunde.

古生物學に關するもの

3. Shiner

An Introduction to the Study of Fossils.

4. Lull

Organic Evolution.

5. Potonié

Lehrbuch der Pflanzen-Palaeontologie.

6. Abel

Lehrbuch der Palaeozoologie.

岩石學に關するもの

7. Weinschenk

Anleitung zur Gebrauche des Polarisationsmikroskops.

8. Weinschenk

Die gesteinsbildenden Mineralien.

(以上二書の英譯 Weinschenk-Clarke; Petrographic Methods)

9. Weinschenk

Grundzüge der Gesteinskunde.

(英譯 Weinschenk-Johansen : Fundamental Principles of Petrology)

10. Harker

Petrology for Students.

應用地質學に關するもの

11. Ries

Economic Geology.

12. Klockmann

Lehrbuch der Mineralogie.

13. Dana

Text-Book of Mineralogy.

雜 報

1914

14. Goldschmidt

Projektionen und graphische Kristallbe-
rechnung.

15. Linck

Grundriss der Kristallographie.

右は既に指示されたのであるから受験者必須のものなることは云ふまでもないから、この二ヶ問題をしながら、右の諸書を補ふべきもの或は之に代るに足るものをこの際説明しておくことは何かの參考に資することと思ふ、それを左に掲げる、是等のあるものは京大理學部に於いて地質學、礦物學を主として修むる學生に參考書として奨められてゐるものである。

Geikie A. Text-Book of Geology 3 vols.

之は(1)に代るべき名著で、(1)より版は古いが、(1)の詳しい、名著には捨てがたい重みがある。

Kayser.

Lehrbuch der Geologie 4 Bde.

之は(1)に相當する獨逸語の書かれた代表的ものである、第三卷層序學の部は最新版にて第四卷は未完である。

Kayser

Abriss der allgemeinen und stratigraphischen Geologie.

之は右の書の節約された一巻に纏められたもので要領を得るに便であり、しかもカット等は右の大版と全然同じであり同じ敷だけ入つて居る。寧ろ之を奨める。

Marr

Principles of the stratigraphical Geology.
之は(2)の補ふべきの理論をサツしてゐる。是非一讀する價值がある。

Hawkins

Introduction to Palaeontology.

Zittel-Eastman

Text-Book of Palaeontology. 2 vols.

之等は(2)(3)(4)に相當するもの、後者は二卷で哺乳類の部が未完である。

Winchel

Elements of optical Mineralogy.

之は(1)(2)に代るべきの改版中で再版は第一卷(原理的方法)だけ出ている、(2)より説明の圖が適切なのが多い。

Rinne

Gesteinskunde.

之は(6)に代るべきもの、岩石岩漿の物理化學的見方、岩石の應用問題迄簡単に記載されてゐる。

Hatch

Text-Book of Petrology. 2 vols.

1. Igneous Rocks.

2. Sedimentary Rocks.

之は(1)に相當するもの、第二卷は最近に新版が出た、序述

が簡潔で至極便利な書物である。

Niggli: Lehrbuch der Mineralogie.

之は(12)(13)を補ふべきもので礦物學書のアップトゥデートのもので最近の進歩を窺ふにはなくてはならぬ書物である、その範圍も(12)(13)より廣く岩石學、鑛床學、結晶學、結晶物理學をも含んでゐる、いつでも古い礦物學に許り膠着して居る時でないことがわかるであらう。

この外 “Sammlung Göschen” の中の礦物學地質學結晶學等に關するもの、中に手頃な參考書を見出すことが出来る。(伊藤)

○南滿の甜菜糖

南湖洲製糖株式會社鐵嶺工場は大正十一年十二月竣工し直に製糖を開始せるが其成績良好なるを以て大正十二年度には地方農民に對し多額の甜菜栽培契約をなし約一億萬斤を買收せんとしたるに同年度の甜菜作柄は夏季の降雨多量なりし爲甚しく水害を被むり買收見込三千百萬斤に過ぎざるを以て本工場の產出能力一億萬斤に對し凡そ三分の二の不足を生じ目下毎日三百餘噸の甜菜を消化してゐて一月末には本期の製糖を終るさいふが右甜菜買收値段は千斤に付洋錢六元五角で之に運賃其他を加へて工場資金八圓五拾錢内外なり、當工場製品は奉天工場製品よりも品質良好にして出來歩合亦多し是に機械の嶄新優秀なるに依るものにして、奉天工場は内地製の機械を用ひ、鐵嶺工場は米國製の機械を据付けたるによる。

從來製糖に際し生ずる廢蜜は之よりアルコール又はウオッカ

を製造するに過ぎざりしが近來之より更に原糖を作ることを試みたるに相當費用を要するも廢蜜含有糖分約四十五%の殆ど全部を原糖に返し得べく極めて有利なるを以て同工場に於ても大正十三年度より之が實行を試むべく既に米國ステーション機の据付を了したり、尙工場の製品は之を香港糖に比較するに値段は大差無きも品質優良なれば今後南湖洲の甜菜増收と製糖工場の増設を見れば滿洲製品を以て滿洲全額の需要に應ずるを得べき見込なりといふ。

○甘珠爾廟

東支鐵道の附設せらるゝ以前に北蒙古の唯一の貨物集散地として發達し、巴爾虎地方喀爾喀一帶の蒙古人が集まつてくる一大歳市が此甘珠爾廟畔に開かれたものである、蓋しこの廟は滿洲里驛の東南方二百露里、海拉爾の西南方百七十六露里の地にあつて高宗が乾隆四十九年に喇嘛の神廟をここに建てたのに始まり、秋季舊曆八月六日より十五日迄喇嘛の大法會を執行する、この法會に禮拜する數千の蒙古人を顧客として一の歳市が成立してゐるのである、東支鐵道開通の後昔日の隆盛はないが、それでも昨年八月一日より五日迄の間の家畜取引は大規模のもので牛馬羊七千五百頭三十萬七十五百元の取引があつた、蒙古人は其の賣上金をもつて、六日以後支那人露國人などから日用品を求めないのである、英人は既に此市に活動をはじめたのに邦人はまだ此市を利用する者がないこの事である

○ボルスオの發達

主要港サンダカンを通じて行はるゝ、北ボルネオの貿易は看過すべからざる重要度に達し輸入貿易額

は一九一四年の三十七萬六千磅より一九二二年八十一萬七千磅に増加し輸出入總額は百五十三萬七千磅に上れり其港の出入船舶は一九一四年入港一八七、〇五九噸出港一八六、九三九噸にして内獨逸は七五、九五二噸を占めしが一九二一年獨逸は全く退き日本之に代り入港三四九、二九〇噸、出港三四九、三二五噸の中日本船は六七、〇〇〇噸を占め其他は總て英國船なり一九二一年の主要輸出品は石炭、木材、コブラ、コ、ナツ、干魚、植林産謨、煙草及藤なり木材仕向先は香港、英國、濠州及新嘉坡にして香港は干魚及藤の主なる仕向地なりゴムはすべて倫敦に煙草はすべてアムステルダムへ送くる、支那人の農産發達に貢獻せる力大なり。

○米國農産實收高

昨年十二月十七日米國農務省の發表によれば、本年の小麥實收高は七億八千五百七十四萬千ブツシエル(約一億五千七百萬石)にして前年よりも八百七十八萬七千ブツシエル少く價格は前年一ブツシエル(日本二斗餘)平均一弗七厘に對し本年は九十二仙三厘なり。

玉蜀黍は本年は農作にして三十億五千四百三十九萬五千ブツシエルの實收あり前年よりも一億四千八百三十七萬五千ブツシエル多く價格も前年の平均六十五仙八厘に比し本年は七十二仙七厘の高値なり。

米は前年の實收四千四百五十萬五千ブツシエル(約八百二十八萬石)ありしも本年は三千三百二十五萬六千ブツシエルに減收せり價格は一弗十仙三厘(二石十一圓)にして前年よりも十七仙

二厘高し。

農産物中際立ちて收獲増加したるは亞麻仁にして前年の約七割増加し千七百四十二萬九千ブツシエルを擧げたるが斯は政府當局の獎勵に基くものなりと云ふ、農産物實收高全體に對する評價は八十三億二千二百六十九萬五千弗にして前年の評價よりも多きに八億七千二百八十九萬千弗なり。

○加州米本邦向輸出、カリフォルニア産米の我國に輸出せらるゝは最近の事實にして其以前は屢々試みしものありしも其始めて成功するに至りしは一九二一年六月以後の事なり爾來毎年六七月頃を以て輸出最盛期とし一九二一年六月以降輸出高五六、〇三六、〇四九封度、一九二二年中一一八、三五九、三二八封度、一九二三年一月より九月迄六二、四四〇、三二六封度に達せり。

○南洋木材

南洋木材は其材種極めて多數にして二千種に上るを云はる、南洋の森林は遺林せるチーク材を除きては多數材種の混合林なり從て之が伐採選別搬出及販賣に手数を要し時々収支相償はざるものあり、今實用上より南洋材を四種に大別す。

チーク材、南洋のチーク材は主として政廳又は特種企業家の造林に係り其實濠州チークに劣ると謂はるゝも品質優等なり。

アナ材、支那材木商が笑ふ呼ぶ色合の薄き硬材にして上海税關にて新嘉坡白チーク材と記さる、硬材なれどもチークより軟く使用に便なり。

ス、ラ、材、支那材木商が紅木と呼ぶ濃褐色を帯びたる硬材の總稱にして上海税關にて新嘉坡赤チーク材と誌さるゝものなるが、少くとも二十種以上の木材の總稱なり上海材木商は丹念に之を選別して五割方高く取引さるゝ由なり。

ジエトロン材類、南洋材は主として硬材なれども軟材なきに非ず其代表的のものをジエトロン材とす、白色の軟材にして主として下駄に用ひらる。

以上は主として新嘉坡を中心市場として取引せらるゝ、此外ホルネオチーク、スマトラ島ラサツク材等何れも輸出に適し、北ホルネオ、タワオ港附近に三藝經營の木材部あり毎月三百噸のチークを香港市場に供給しつゝあり、次に注意すべきはこの地方に産する木炭なるが支那人及土人の炊事用に供せられ原料は原價なき程なれば従つて炭價も安く馬來半島トレカス州にては一斤八厘見當にて取引せらるゝと云ふ、木炭に供する材は海濱遠淺の地に繁茂するマングローブ樹にして之を焼く時は鹽分を含むために火力強しと稱せらるゝ、この仙森林を伐採して製炭するものあり近年邦商、三井物産千田商會等より本邦へ輸出を試むるあり、製炭方法を改良せんには邦人の面白き企業なるべし。

○伊太利生絲の世界的地位 最近國際農事協會の公表

せる統計に徴するに一九二二年度世界蠶糸界の收繭類は一億六千四百萬基瓦にして其生絲生産額は千六百萬基瓦と稱せらるゝ尤も該計數には支那生産額を含まず（支那方面よりの生産學報告なかりし爲）然れども其輸出方面より之を概算總計すれば一箇

年世界生絲生産總額は二千四百萬基瓦と算するを得べし其の中約十分の八は日本、支那及伊太利三箇國に於て之を占め之に次ぐな土耳其、アシアロシアとして尙之に並ぐを佛、埃、洪、西班牙、アルガリア、印度及朝鮮とす。

今次の日本大震災の爲多量の同國産生絲の焼失と今日に至る迄世界の生絲輸出國中其割を稱へ居たる日本が茲數年間新業に脅威を蒙るの狀態に陥りたることは著しき絲價相場の昂騰を來し同時に諸外國市場に異常の活況を惹起し殊に北米合衆國は有名なる生絲消費國にして其主なる需要は之を日本に仰ぎたり現に一九二二年度の如き北米合衆國の生絲需要の八割は之を日本市場に仰ぎたり、然るに今や北米合衆國は彼の需要を主として伊太利に向くることとなり爲に一時全く伊國市場は最有利なる地位を確保するに至れり、蓋し日本震災の結果、生絲相場は一基瓦につき五百利以上に騰貴し一九二三年度伊太利産生絲の獲利は僅に二箇月足らざる間に約二十億利と計上せられたり、伊太利の生絲産地は、ロムバルデア地方を自眉とし、ベネト、ピエモンテ、トスカリーナ、エミリア、マルケ等の地域に亘り、一九二三年度に三百七十五萬二千基瓦を提供せりと稱せらるゝ（大正十二年十一月、ミラン報告）

○印度の石炭

一九二二年度全印度の石炭產出高は一八、一六八、九八八噸なるも前年度に比し一八九、九四六噸即一分三毛方の減少を示めし其產出地はベンゴール州アツサム州ビハール及オリッッサ州中央州其他である、ベンゴール炭と稱せ

らるゝものが其大宗である、ベンゴール炭は印度産出炭の二大源泉地として知られてゐる「ザエリヤ」Herria 及「ラネーガン」Zangana 兩産地のものである、此兩炭田はカルカッタの西北百八十哩「ムタル川」の河岸流域に位し、其採炭地の主要部分は「ビハール」及「オリッサ州」内に介在するから、ベンゴール炭と呼ぶのは慣用語たるに過ぎない、「ザエリヤ」から年額約一千萬噸「ラネー」から同五百萬噸を産し兩地の産を合せて全印度の産出の八三パーセントを占めてゐる。

○朝鮮の人蔘

人蔘は朝鮮至る所多少の産出を見ない所はないが、古來高麗人蔘として世に珍重せられて居るものは主として京畿道開城附近に産する五加科に屬する宿根草である、其耕作は苗圃一年、本圃五年合計六年を経て収穫せらるゝ、収穫したまゝのは水蔘で之を蒸して乾かしたものが紅蔘である、水蔘をそのまゝ日光に乾したものは白蔘といふ、名高い人蔘はこの紅蔘のことで専ら支那に輸出される、そして紅蔘だけが朝鮮總督府の專賣に屬する。試に支那に於て消費する外國産人蔘の數量價格について最近一ヶ年の數は次の通である。

産地	通稱	數量	平均一斤の價格
米國	花旗蔘	八〇、〇〇〇斤	二〇圓
日本内地	東洋蔘	一四〇、〇〇〇	五圓

朝鮮	高麗蔘	三〇、〇〇〇	一五〇圓
滿洲	關東蔘	一六〇、〇〇〇	八圓

即ち高麗蔘の價は米國産の七倍強、内地産の三十倍滿洲産の

十九倍弱になる。

人蔘栽培の最も盛であつたのは明治三十五年頃で官私蔘を加へて十萬斤以上に達したが十數年前から赤病が蔓延して産額激減したので栽培方法を改良し、紅蔘專賣法を施行して蔘政の改革をはかつた、めに近來其發達大に見るべきものあるに至り、大正十一年度に於ける掘採坪數左の如くである。

掘採坪數	四七五、三三九坪
收穫水蔘	一六三、〇五三斤
紅蔘製造高	四〇、五七一斤

右の外專賣以外の苗圃もあつて大正十一年度 於ける坪數二二九、八七九坪に達し收穫水蔘は二八四一一斤に達したといふ

○火田の民

朝鮮には村落に定住する普通農民の外に、山地に漂流生活を営む火田民といふのがある、全鮮を通じて分布する火田民の戸口及部落數等は明かでないが、火田の總面積が十四萬四千餘町歩に達してゐる點から考へると戸口部落の少からざることを想定する、これらの火田民が其耕作すべき林地に火を入れるには先づ面事務所に許可願を出し、警察官がこれを臨檢して火災豫防の條件を附けて許可することになつて居るが僻地になるをこれを侵す者が頗る多いので森林の荒廢が夥しい此の火田民は同一地區に定住して普通農民と同じく副業を営むものもあるが、それは至つて少數で多數の者は三年か五年にして移轉する、其食物は一年中の或季節は自作の農作物で支へ他は草根木皮、果實による、火田は一旦耕作した處は四五五年以

上耕作することが出来ないで何れの道でも現に火田になつてゐる地畵の外に三年以上の休耕地が廣い、火田の種類にはホテキ(火徳)、火田、山田の三種がある、ホテキとは山嶽地方の原生林に初めて行ふことを云ひ、火田とは最初の一年間に行つたホテキに對し二年以後四五年間連續する狀態を云ひ、山田とは特に傾斜の急なる火田を呼ぶ、今各道について耕牛を便役し得る火田の傾斜極度を調査すれば左の如くである。

慶尚北道 三五乃至四五度

黃海道 五十度

平安北道 四十度

江原道 四五度

咸鏡南道 二五―三五度

蓋し人口の多い所ほど急斜地が荒されてゐるのである。

○獨逸最近の物價 一九二三年十一月二十九日アルゲマ

イネ紙は今や獨逸の主要日常必需品の價格は紙幣馬克相場關係を全然除外し之を金本位にて計算するも戰前の價格に比し數倍騰貴せることを指摘せり、右に依れば肉類鶏卵は戰前の三倍乃至四倍に騰貴しパン、チーズ、砂糖は三倍、馬鈴薯は實に十倍以上の騰貴を示せり、獨逸の物價騰貴の報道は本邦の新聞にも屢々掲げられ居るも右は單に下落しつゝある紙幣馬克を以て標準とする場合に就てのみ謂ふものと解し外國紙幣を有する在獨外國人に取りては獨逸の生活費は依然として他國に比し著しく廉價なるものと誤解する向勢からざるものゝ如くなるが、獨

逸の紙幣馬克は事實上最早物價の標準たるの資格を失ひ一般商品に固より食事、家賃、新聞、書籍、劇場等凡て金貨馬克を以て價格を定め居る狀態にして是等の金本位の價格が最近非常に騰貴し來り他歐洲諸國の物價を凌駕するに至れる次第なり、今一實例を舉ぐれば一九二三年十一月獨逸各新聞の代價は倫敦タイムスの四分之一にも満たざる頁數の伯林ターゲブラット紙は一箇月十五金貨馬克即ち邦貨十圓餘にして倫敦タイムス一ヶ月四志即邦貨二圓なるに比し三倍半高く其他の新聞にて七金貨馬克五十布より廉きものなし(三圓五十錢)又伯林一流ホテルのエスプラナードにては一九二三年三月末約一磅半を要求したる一室(浴室付二人床)に對し昨今は二磅半を要求し其食事の代價は米國の同等ホテルに比して四割方高し。

尙紙幣馬克は法制上今日尙支拂の手段として強制通用力あり従て金貨馬克にて價格を定められたる場合にも其日の換算率に應じ紙幣馬克を以て支拂を爲し得べき筈なるに拘らず食料品殊にパタの如きは紙幣馬克を以てしては店舗に於て全然販賣を肯ぜず、即ち販賣者は金建公債(小額のもの紙幣同様の體裁にて發行せられ普通取引に使用せらるゝレンテン、マーク)を要求しつゝあり、紙幣馬克は斯の如くにして漸次市場より驅逐せらるべく其購買力の死期は餘り久しからざる内に來るべしと認めらる從て既に今日に於ては馬克相場の下落は何等獨逸の物價下降(外國貨に換算する場合に於ても)を意味するものに非ず右様獨逸の物價騰貴は各種工業原料燃料の騰貴及勞銀の上騰に基因するこそ勿論なるも如上急激なる昂騰は主として從來紙幣馬克

に依る價格を其鑑定値段に換算するに基因するものと認められ其不當を鳴らすの聲漸く喧し。

○地理科本試験問題 (大正十三年一月施行)

一、地震計ヲ説明セヨ

二、メルカトル圖法ノ特色ヲ述ベ何故ニ海圖ニハ此ノ圖法ヲ用フルカヲ説明セヨ

三、石狩川流域ノ人文地理ヲ説明セヨ

四、ライン川流域ノ自然地理ヲ説明セヨ

五、北京上海間ノ主要ナル交通線路ヲ列舉シ之ヲ説明セヨ

六、太平洋ニ於ケルアメリカ合衆國ノ勢力ヲ地理的ニ考察シ之ヲ説明セヨ

七、左ノ地ニツキテ知ル所ヲ記セ

イ、プレスブルグ Pressburg (Pozsony)

ロ、徐家瀆

ハ、イラク王國 Irak

ニ、カンベラ Canberra

ホ、世界ニ於テ最も重要ナル無線電信局所在五箇所

ヘ、世界ニ於テ特ニ灌溉工事ニヨリテ開發セラレタル地域五箇所

(注意) 一、二、三、四、五、六ノ諸問題ハ地圖、圖式等を付シテ答フル

ヲ要ス

右四時間

口答問題 第一日

一、諏訪盆地附近の模型を示し其地形の特色と郡邑並に交通路につきて説明せしむ

二、携帶水準儀を與へ其の使用法を説明せしむ

三、太平洋の海圖を示し横濱とヤルト島との距離を同上にて測定せしむ

同 第二日

一、北陸地方の掛圖につきて其地方の地形の特色と郡邑並に交通路につきて説明せしむ

二、アリズマチックコンパスを與へ其使用法を説明せしむ

三、地球儀上に於て東京と某地點(ロンドン、ヤルト、シンガポール等)との間の最短距離を測定せしむ

以上

新刊紹介

○市町村大字讀方名彙

小川琢治著 大正十二年六月發行

本書は市部町名彙及大字名彙の二部より成りすべて正確なる假名遣によりて地名の發音を網羅せり蓋し地名には漢字あり讀方あり、漢字の如き岩手縣の岩を巖と記し大阪の阪を坂と誤るの類川と河と何れが公定せられたるか否や容易に知りたきのみならず其讀方に至つては漢字と全く離れて訛稱其據所を知らざるもの多し。更に濁濁の區別に至ては人によりて差あるを免